

【いちのせきの市民活動情報をお届けします】



idea

- ちょこっと紹介
- ファシリテーション地域づくり実践塾
 - ① 地域づくりは人づくり
 - ② ビジョンの可視化と共有化
- いわて NPO 職員ネットワーク
- 未来塾
- 12月のイベント・ボランティア情報
- いちのせき子どもフェスタ
- 花菜油の会

idea(アイデア)

いちのせき市民活動センターNewsletter
「idea」は市民活動がアイデアを持って NPO
と行政や企業、市民との出会い(deai)の
機会を創り出す事を目的とした情報誌で
す。センター情報をはじめ管内の市民活動
団体情報や行政情報をお届けします。

センターの「〇〇なら。」はこちらから。⇒



ちょこっと紹介

ハロウィンパーティー



◇◆◇10月29日(金)in 山目公民館◇◆◇

B.R.G(一関世代に架ける橋)では、市内に在住する高校生、大学生をはじめとして、年齢、性別、職業、国籍を超えて連携をするボランティアの協力のもと、多様な催しを行っています。地域における健全な子どもの育成に寄与し、継続して行っている事業は地域に根差したイベントとして定着しています。

ハロウィンに合わせて開催したハロウィンパーティーには、個性的な衣装で仮装した小さな子とその保護者らがあつまり、スタッフをトイレットペーパーでぐるぐる巻きにしてミイラ化したり、グループごとにハロウィンにちなんだゲームをしたり、多彩な活動を通して、様々な職業、年齢の人たちの交流を促進します。



◇◆◇回収ボランティアのお知らせ◇◆◇

B.R.G では、回収ボランティアにご協力していただける方を募集しています。自分にできることからボランティアを始めてみましょう。

回収している種類の詳細は、idea「イベント・ボランティア情報カレンダー」をご覧ください。



◇◆◇11月2日（火）【事務局講座】

会場：Point1

「NPO」が導く「方向性」とは？

若菜千穂さんを講師に迎えて開催した「事務局講座」では、「地域づくりは仲間作り」と題して、まちづくりをするNPOが地域とどのような関係を築いていくのかに視点を当て、地域づくりの内容とその具体的な事例を中心とした講義を行い、訪れた受講生との質疑応答では活発な議論を行いました。

岩手県での生活と地域づくりに長く関わっている講師の若菜さんは、岩手大学教授の広田先生の言葉を引用して、「地域づくりは実践力を高めること」と指摘します。そのために必要な条件として「実践力を高めるために必要な4か条」と題してNPOが地域に関わり、事業を行う上での注意点についての解説によって、地域づくりをするうえで欠かせない「地域で生活している人とNPOとの関係」の在り方を共有することができます。

地域コミュニティでは、少子高齢化の進行によって「昔ながらの地域風景」が様々に変化しつつあります。その結果、人と人との結びつきは薄れ、本来の地域コミュニティの在り方を変えられないまま、問題点が発生し、地域にすむ人たちが自分たちの手で問題を解決していくことが求められています。

いくつかの地域での実践を踏まえたうえで、地域づくりにNPOが介入することで、「あえて、協力してやることで、

人々のつながりを復活させること」が重要になります。そのためにも、できるだけ多くの人に参加できるような仕組みを作ることで、多くの人で成功体験を共有することにつながります。

地域で暮らしている人にとっては、「日常生活が一番大切」としてしながらも、現状を知り、共有するための「地元学」が有効な手段として挙げられ、「いかにやる気になってもらうか」という課題を解決するためには適切な目標設定が必要です。

若菜さんは目標設定・体制作り・運営方法における注意点を分かりやすく「4か条」で解説しています。「誰もが地域づくりを始めることが可能であり、そのために必要なポイントを学ぶことによって、実践におけるNPOと地域との微妙な距離を理解することにつながる」と語り、距離感を正しく把握することが重要です。

地域づくりに関わった後、NPOが抜けてしまうと活動そのものが停滞してしまうという課題もあり、NPOが「仕組みづくり」と「方向性」を導いていくうえでの『「信頼を得る事」と、『地域づくりの団体を組織として自立させること』の両立の重要性』が課題として挙げられ、「地域づくりをするのは地域にすむ住民であり、NPOは前に出ない」事の認識が必要です。



◇◆◇11月27日(土)【ファシリテーション講座】

会場：Point1

「ビジョンの可視化と共有化」が加速させる思考の現実化

「地域づくり」という言葉を共有していても、その言葉が指す具体的な地域の理想像、「ビジョン」は相手にうまく伝わっていなかったり、正しく把握できていなかったりします。「ちかごろ」を見つめなおし、「あのころ」をふりかえり、「未来」をかたちにする。そのステップを確実にとらえるためには、どのような手順が必要なのでしょう。

この日、会場に集まった人たちは、みなそれぞれの活動でそれぞれの思いを持って活動しています。「ビジョン」という言葉には、「視覚」のほか「幻想」などの意味もあり、形の曖昧なものとしてとらえられることもあり、これからの社会を考える時に、一人ひとりが目指す方向性を確認するときなどに、その内容を「頭の中になんとかイメージはあるんだけどどう表現したらいいかわからない」というような理由から、なかなか人に伝えたり、人から聴き出したりすることが難しいと感じている人も多いかもしれません。この日のワークでは、「過去」「現在」「未来」を見つめ、言葉にする事によって、「ビジョン」を再確認すると共に、集団で共有することで「可視化と共有化」を行います。これから実際に地域づくりをするうえで、「思考」を列挙し、整理し、組み立てるといったファシリテーターの技量として欠かせない「可視化と共有化」のスキルを、実際の「まち」と結びつけた内容となっています。

■「黄金時代」＝「過去」をほりさげる

初めに行ったワークでは「過去」に視点を当て、自分が住んでいた家とその周辺の地図を描くことで、過去の自分自身と向き合います。当時の流行や食べ物など、「記憶」は頭の中に確かに残っていますが、それを知っているのは自分だけです。それを他者と共有するために、「言葉」と「地図」を使うのですが、うまく説明できたでしょうか…？

■「活動内容」＝「現在」をほりさげる

続いて行ったワークでは、「現在」に視点を当て、自分が行っている活動とその主軸となる説明を記入することで、普段自分が行っている「情報の提示」の方法と向き合います。2 人一組で行った「質疑応答」では、ひたすら活動の内容を説明し続けます。1 つの活動を説明するときに使う言葉は多様であり、自分の中で抽象することができたでしょうか…？

■「理想の街」＝「未来」をほりさげる

まとめとして行ったワークでは、「未来」に視点を当て、自分が「いきたいまち」とその具体的な内容を説明することで、自分自身のビジョンの広がりへと向き合います。同じ問いを続けることで発生する答えと、その答えに一貫して含まれているメッセージを、自分で見つけます。

志縁団体紹介

いわてNPO職員ネットワーク



◇◆◇11月12日(金)◇◆◇

北上市民活動センター

NPO や NPO 職員のミッションとは…?

いわて NPO 職員ネットワークは、「2020 年までに地域のために働く NPO という職業が岩手で人気職になる」というミッションのもと、「ネットワーキングによる若手 NPO 職員のスキルアップ」による、市民活動全体のマーケットの拡大と、市民が提供する公的サービスの質・量の増加を目的に 2009 年に設立されました。

NPO の職員の雇用主は社会全体である、という視点に基づいた「社会的なシステム」「組織体系」「ネットワーク」などの構築のため、交流・情報共有・ネットワーキングや安心して職を全うするための環境整備への提言を行います。本年度は、いわて NPO 基金の助成を受けて、県内で働く NPO 職員を対象とした雇用実態調査と若手職員を対象とした職員スキルアップ研修会を開催します。

雇用実態調査は、10 月から県内約 360 法人にアンケート協力依頼を行い、現在、集計を取りまとめています。

第1回職員研修会(11月12日(金)北上市)

職員ネットワークコンセプトの説明・【岩手県の NPO 職員実態調査アンケート】の中間報告・ビジネスカウンセラー下山真之さんの講演という内容で、初めての研修会を開催しました。

NPO と企業の違いは？こんな問いかけから下山さんの講演は、始まりました。NPO と企業の違いには、「ミッションがあるかないか」「地域の課題や社会の課題に向かか向かないか」という意見が多く述べられました。企業には「企業理念」というミッションがあり、植樹、社員の派遣、

イベント開催、など地域活動を行っており、NPO となら変わらないのです。一番の違いは、人。企業は、人を雇用し、企業活動を行う。NPO は、人を雇用してはいるが、常勤職員の数より、契約職員や臨時職員、あるいはボランティアとして参加者を募り、活動を行っている。

起業家であり NPO 活動も行う下山さんは、人件費に投資しているかいないかが大きな違いであることを説きます。企業は、人件費に投資するから利幅の少ないことはできなくなるが、NPO は、人件費を抑える仕組みを知り、活動を行うため、地域の小さな課題まで向き合うことができる。小さな課題に向き合える NPO の特徴をメリットとして、自分たちが行っている活動の最終的な目標・ビジョンを思い描き、共有することが大切だと述べ、ワークを通して、互いに考えている事や感じている事、ビジョンを共有しました。

NPO の団体は多種多様であり、活動の分野や領域も異なります。しかし「地域」という場で活動する NPO 団体は、「自分たちの団体のミッション」を遂行することで「地域コミュニティ」というすべての NPO に共通のマーケットにサービスを提供しています。NPO の職員に求められているものは「関心を持つこと」「スキルを磨く事」「ノウハウを身につけること」「社会へのサービスを向上させること」などであり、日常の業務でこれらを向上させていくことが望まれます。

次回の研修会は NPO 活動交流センター(盛岡市)を会場に12月6日(月)に開催されます。

志縁団体紹介

未来塾



◇◆◇11月20日～21日◆◆◇

いちのせき健康の森

アイデアの出し方は、パズルと同じ…かもしれない。

未来塾は、地域の課題解決のためにNPO、行政、企業、それぞれが対等なパートナーとして、ものごとに一丸となって取り組むことの意義を考え、市民自らの手で行える新しい「まちづくり」の方法を議論し提言するとともに、自ら実践し、地域の発展に寄与することを目的に活動しています。

平成18年から21年までの4年間で開催した研修会で挙げた地域課題の解決手段の一つとして、「全国わんこもち大会」「地下道、30%」「ご当地キャラクター“関殿”」のような企画等を開催し、観光・商工・メディアなど様々な分野から大きな反響を得ていますが、実践の場として行うイベント等は、議論の末に行き着いた結論の検証と、研修の成果を測定するために生まれた副産物であり、一人ひとりの持つ様々な力を高めること、多くの人たちと連携できるネットワークを構築することこそが、未来塾の研修会に求められる大切な意義と考えています。

本年度の研修会においては、アイデアの出し方を学び、課題に対する解決策を生み出すための様々なアプローチ方法を学び、一人ひとりの能力（パーソナルパワー）を高めるとともに、人の繋がりを構築し、更なる人財育成を目的として「来て未来んアカデミー」（宿泊研修）を開催しました。

企業・行政・NPOの若者16名が参加し、ゲストファシリテーターにNPO法人風・波デザイン代表 宮崎

道名さん、NPO法人いわてNPO-NETサポート 菊池 広人さんを迎え、「マイナスをプラスに変えるには？」「プラスをプラスにするには？」というテーマでワークショップを行いました。

2つのテーマには、考え方の視点を変えることによってアイデアの出し方や課題解決のアプローチを高めることを目的としています。また、実践を積んでいる方のファシリテートを見ることから、リアルに学ぶことを目的としています。

具体的なアプローチとして商店街の課題から空き店舗活用について議論しましたが、商店街のビジョンを描く手法から始まったマイナスをプラスにするワークと、現実を知り将来設計を考える手法から始まったプラスをプラスにするワーク。まちづくりや課題解決の第一歩は、将来設計（デザイン）すること、到達点を共有することです。思いを共有することでアイデアや提案が始まり、議論が具体化していきます。

一泊二日の研修で考えた方向性は、マイナスをプラスにするワークは、みんなの楽しいを詰め込んだ商店街イメージ「いちのせきスクランブルショップ」。一方、プラスをプラスにするワークは、こんな人たちに集まってもらいたい商店街という思いから子育て中のママたちが空き店舗を運営する「てっぺい妻カフェ」。

今後、グループ毎に集まり、より具体的な内容を考え、実現可能な姿を描きます。

12月		イベント・ボランティア情報				
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11 ①
12 ②	13	14 ③	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

No.1 小松原俊アコースティックギターソロライブ

日時 12月11日(土) 18時30分開場
 場所 Point1
 料金 前売: 3000円 当日: 3500円
 連絡 turque131@yahoo.co.jp (小野寺)

No.2 三絃・津軽三味線コンサート

主催 花と泉の公園
 日時 12月12日(日) 13時30分~15時
 場所 花と泉の公園内 レストランはずみ
 内容 鬼才・黒澤博幸のコンサートです。
 料金 前売: 2000円 当日: 2500円
 電話 0191-82-4066

No.3 クリスマスパティー

主催 子ども劇場 (080-5221-6087)
 日時 12月14日(土) 10時~12時
 場所 バルーンキッズ 2階
 料金 100円(200円のプレゼントを用意して下さい)

【その他の回収ボランティア】

- 書き損じはがき
⇒ユネスコ協会を通じ子どもたちへ学用品を購入
- 使用済み切手
⇒一関市社会福祉協議会を通じ車いすを修理・整備
- 未使用の歯ブラシ
⇒歯ブラシが買えず歯を磨けない子供たちへ寄贈

No.4 しょうがい者乗馬会

主催 パカボコクラブ
 日時 12月26日(日) 10時~12時
 場所 佐々木牧場 (花泉町金沢字有壁沢 13-1)
 内容 馬と子供のふれあい★ボランティアも募集♪
 料金 1000円
 対象 しょうがいをもつこども、馬に興味のある方。
 電話 0191-82-5584 (佐々木)

No.5 そろばん学習 体験学習会

主催 NPO 法人全国地域学習振興会
 日時 (土日祝除く) 16時~17時
 場所 認定教場* 小野寺塾指導ネットワーク
 内容 そろばんの体験学習会を行います。
 料金 無料
 電話 0191-23-5798 (小野寺)

No.6 ECO キャップ回収

主催 B.R.G (世代にかける橋)
 日時 いつでも回収しています。
 場所 ご家庭、学校、職場で回収してみてください。
 内容 ペットボトルのキャップを回収しています。
 料金 400個集めると10円になります。そのお金でワクチンを購入して、寄付する取り組みです。
 電話 0191-23-9721(橋本)

いちのせき こどもふえすた

2010.12.18 10:00~14:00

in アイドーム

上履を
ご用意
下さい



10:30 人形劇ラビット



11:40 親子ピクス

日本エアロビ連盟
認定指導専門委員の
藤野恵美先生と
親子で一緒に
楽しく親子ピクス!



13:00 ドリームキッズ



おさがり広場

マイバッグを
お持ちください!
おもちゃの病院
普遊び・物づくり
パルーン教室も
開催します!



13:30 ピンゴゲーム大会

1位 おもちゃ券
2位 スシロー券
3位 サンタの靴
4位 図書券
5位 文具/お菓子等
全員に当たる!



0円おもちゃ市



サイバーホイール



相談コーナー



11時&12時

ベビーサイン教室

※当日はドルチェさんのお弁当もご用意いたします。

- 主催: いちのせき子どもフェスタ実行委員会(いわてNPO基金助成金事業) ●後援: 一関市
- 対象: 一関市、平泉町、藤沢町の小学校低学年までの子ども・保護者・子育てを支援している方、妊娠中の方
- 場所: 産業教養文化体育施設「アイドーム」(一関市東台 50-46)
- 電話: 0191-26-6400(おやこ広場: いちのせき市民活動センター内)
- 協力: NPO法人いちのせき子育てネット・いちのせき「おもちゃの病院連絡協議会」メイプルおもちゃ病院
いちのせき市民活動センター・一関世代にける橋・一関マジックの会・いわて母乳の会
ドリームキッズ・日本助産師会岩手県支部奥南地区・NPO法人日本ベビーサイン協会
日本エアロビク連盟認定指導専門委員(藤野恵美様)・人形劇ラビット・明治乳業株式会社



志縁団体紹介

いちのせき子どもフェスタ実行委員会

■ステージコーナー■

- 10:00 開会式
- 10:30 人形劇ラビット
- 11:40 親子ピクス
- 13:00 ドリームキッズ
- 13:30 ビンゴゲーム大会
- 13:55 閉会式



■イベントコーナー■

- おさがり広場&0円おもちゃ市
- ものづくりコーナー
- 昔遊びコーナー
- おもちゃの病院
- ベビーサイン (11時&12時)
- ママ手作りコーナー
- 母乳・育児・栄養相談コーナー
- バルーン教室
- 軽食コーナー (ドルチェ)



いちのせき子どもフェスタ実行委員会（事務局：熊谷博伸さん）では、子育てに関わる、地域の人たちを対象にして、情報交換や世代間交流などを目的としたイベントを開催します。

「いちのせき子どもフェスタ」は今年から実行委員会を中心となって開催するもので、地域全体で子どもを育てることを考える機会を提供し、未来をつくる子どもたちの健全で安全な環境を守る事がねらいです。

会場となるアイドームでは、ステージを使用したアトラクションと、ブースを利用したコーナーを設置しており、子育てに関する悩みを相談できるスペースも用意しています。子育て中のお母さんだけでなく、子育てに関わる地域の方、妊娠中の方、子育てに関心のある方など、多くの人が集まり、地域の子育てと子どもの未来を考える場になる事につながります。

子どもフェスタは参加無料ですが、当日は0円おもちゃ市、子ども服おさがり広場、などのお得なイベントもあり、マイバッグを持参して、おもちゃや子ども服の再利用につなげることができます。

また、子どもを対象に行うビンゴゲーム大会は、参加者全員にプレゼントが当たる豪華な企画です。たくさんのご参加をお待ちしています。

志縁団体紹介

花菜油の会



菜の花ネットワーク一関「花菜油の会」では、「豊かな農村景観の形成と豊かな農村の食生活の実現」を目指し、菜の花写真コンテスト、菜の花めぐりツアー、菜の花環境学習会、菜の花たよりの発行（生産者向け）などの幅広い活動を行っており、生産者のための研修会などで製品をPRしたりするなど、積極的な情報の発信を行っています。

「アレルギーの子どもたちのため、なんとか大豆以外で醤油をつくりたい」という浅沼醤油店さんからの相談を受けたことをきっかけに、一関市大東町にある遊休農地などに菜の花を栽培し、昔ながらの方法でなたね油を生産～加工～販売しています。

花菜油の会では、「菜の花プロジェクトネットワーク」「日本エゴマの会」に入会し、環境や健康、食品問題などの情報収集に努め、ノウハウがない部分は岩手県内の業者と一緒に、商品開発を手掛けています。

一年を通じて、菜の花の種まきから収穫、加工までを手掛ける花菜油の会は、市販の油に含まれる有機溶剤や添加物を始めとした有害な物質の問題点を見直し、有機肥料を用いた栽培だけでなく、菜種油の廃油の回収や燃料としての利用などを通して、「石油」ではない自然の油が持つ自然循環のサイクルを実現しています。

いちのせき市民活動センター 月曜日～土曜日 10:00～19:00 (祝日・年末年始を除く)

■〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29 新鮮館おおまち内 ■Tel&Fax:0191-26-6400 ■E-mail:center-i@tempo.ocn.ne.jp